

# 雇用を生み出し地域活性化の拠点へ

TAIKEI ファーム(株) (豊田市)

## 事業者概要

- 企業名：TAIKEI ファーム(株) (ストロベリーパークみふね)
- 所在地：豊田市東梅坪町10丁目3番地3  
(農園：豊田市御船町東山畑34-2)
- 代表取締役：大矢 伸明
- 設立年：平成30年2月
- 経営規模：施設野菜 イチゴ・メロン 7,500m<sup>2</sup>
- 雇用者数：常時雇用者数5名、臨時雇用20名



## 取組概要

- 【生産（1次）】イチゴ、メロンの生産（高設養液土耕栽培）
- 【加工（2次）】イチゴジャム、イチゴ酢、ドライいちご、イチゴパフェ、メロンピクルス等の製造（自社加工・委託加工）
- 【販売（3次）】イチゴ狩り園、直売

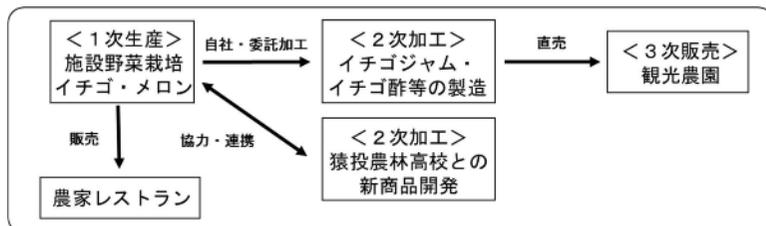
## 取組までの経緯

営農地域は中山間地域と平野部の境に位置し、耕作放棄地の増加や担い手不足が課題となっている。そこで、これらの課題を解決し、地域に貢献したいと、建設会社から農業参入した。農産物の地産地消を推進しながら地域の活性化を図るため、集客に繋がる、大規模な観光農園を開設した。また、6次産業化として、イチゴやメロンの廃棄ロスをなくすため、加工品の開発にも力を入れている。

## 取組の特徴、強み

- ・栽培面では、次亜塩素酸水等を活用したIPM防除を行い、慣行栽培に比べて、化学農薬70～80%減を実現している。また、ベンチの高さを変え、ベンチの間の通路を広くとり、全面床をコンクリート張りにする事で、障がい者や子どももイチゴ狩りを楽しめるようにしている。
- ・イチゴの廃棄はゼロであり、すべて狩り園と加工品に使用している。
- ・女性や障がい者も働きやすい職場を目指し、地域の雇用の受け皿となっている。

## ビジネスモデル ・連携図



## 取組の課題

- 商品開発での加工品の差別化。
- 販路開拓。
- 観光農園のブランド化。



## 課題解決の方法

- OEMを依頼すると無難な味になってしまうため、個性ある魅力的な商品となるよう試作を繰り返している。また、イチゴの品種ごとにジャムや酢を製造することで、品種による味の違いを楽しめるよう工夫している。
- SNS等を常に更新し、魅力ある発信を心がけている。また、グループ企業の強みを活かして各方面に事業周知をしている。
- 農園のブランドイメージを崩さないように安値販売はしない。

## 取組の効果

事業を行ったことで、地域に雇用を生み出しているほか、観光農園として、年間来園者が2万人に達するなど地域の拠点として機能している。

## 活用した支援策

- 6次産業化サポート事業（R2～R3）

## 今後の展望

### 【短期】

観光農園の近接地に農家カフェを開店予定であり、メニュー開発等を行うほか、引き続き農園で販売する新商品の開発を進める。

### 【長期】

今後は農福連携も視野に雇用創出や新規事業を展開する予定。中山間地域である足助地域と連携した農泊のコンテンツや、イチゴ狩り園を県内の他地域での展開、市民農園の開園等を検討しており、将来的には、遊休農地等を活用した地域振興に貢献したい。

## 取組者のコメント

販路等の出口戦略を考えて農業経営をしていかなければならない。そのために、6次産業化の取組は重要となる。

収支のみに追われるのではなく、社会貢献や地域活性化の観点も踏まえて農業経営をしていきたい。

6次産業化は、新たな雇用を生み、耕作放棄地解消にも資する取組であり、今後も続けていきたい。

